

阿蘇山（安達漢城）

巍峨蘇嶽秀千秋 山勢連天壓九州
孔底幽玄有靈火 無窮萬古護神洲

解説 作者の故郷、熊本のほこる阿蘇山の大きさを詠じた詩。

巍峨たる 蘇岳 千秋に 秀で

語釈 ※巍峨〓山が高く聳え立つさま。※蘇岳〓阿蘇山のこと。
※千秋〓千年、永い年月をいう。※秀〓抜きん出る。

山勢 天に 連なつて 九州を 圧す

※山勢〓阿蘇の雄大に連なっている様子。※孔底〓噴火口の底。
※幽玄〓「幽」は奥深い。「玄」は黒い色。奥の深いところは
黒く見える。阿蘇山の噴火口の様子を説明する語。※靈火〓火
口深いところにある靈妙な火。※無窮萬古〓無限。

孔底 幽玄 靈火 有り

※神洲〓日本をさす語。

無窮 萬古 神洲を 護る

通釈 高く聳え立つ阿蘇山は、千年もの間、この地に抜き出て
際だっている。雄大な外輪山の姿はあたかも九州を圧するかの
ように思われる。噴火口の底深くには靈妙な火が秘められてお
り、永遠に、我が国を護のである。